

平成 30 年 12 月 21 日

## 第 2 回新みなとまちづくり研究会が開催されました

平成 30 年 12 月 20 日（木）、国総研沿岸域システム研究室の協力のもと、新しいみなとまちづくりのあり方について検討を進める「新みなとまちづくり研究会（第 2 回）」がみなと総合研究財団において開催されました。座長の篠原修東京大学名誉教授他有識者、本省港湾局関係各課、須野原（公社）日本港湾協会理事長、鬼頭（一財）みなと総合研究財団顧問、山縣同理事長にご出席・ご参加頂き、活発な意見交換が行われました。

第 2 回研究会においては、倉本広島県広島港湾振興事務所長から「広島の魅力あるウォーターフロントについて」と題し、尾道港、宇品港等、防災と倉庫のリノベーションが連携した事例について話題提供がありました。また、有本静岡県交通基盤部理事からは、港湾管理者と市が連携してみなとまちづくりを行うUDC（アーバンデザインセンター）の港版ともいうべき、清水みなとまちづくり官民協議会について話題提供がありました。また、吉村千葉工業大学教授からは、千葉みなとオアシスにおいて利用者アンケート等を行った結果について紹介して頂きました。また、国総研沿岸域システム研究室からは「港湾における空間形成施策の変遷と論点整理」について説明を行いました。新みなとまちづくり研究会では、今年度中に、新しいみなとまちづくりのあり方について提言を行うこととしております。

なお、次年度以降は、実際のみなとまちづくりの現場と連携しつつ、計画・空間形成手法等に係る研究及びそのとりまとめを進めたいと考えております。



第 2 回研究会の様子